

第20回 平戸市介護関係者研修会 支える側が支えられる時

～認知症の母が教えてくれたこと～

日 時：令和4年2月19日(土)14:00～16:00

形 式：オンライン配信(ZOOM)研修

参加対象者：平戸市介護支援専門員連絡協議会会員

平戸市民生委員児童委員・介護・医療関係者 等

※約100名程度

講 師：藤川 幸之助先生



～プロフィール～

■詩人・児童文学作家・日本児童文学者協会会長

■1962年生。長崎大学教育学部大学院修士課程修了。(写真提供：長崎新聞社)

■小学校の教師を経て、現在は認知症の母の介護の経験をもとに、命や認知症を題材にした作品をつくり続けている。また、認知症への理解を深めるため全国各地で公演活動を行っている。作品や活動は、「天声人語」など多くの新聞やNHKハートネットTVなどのメディアでも取り上げられている。

～著 作～ 詩：『扉』※裏面に掲載

『支える側が支えられ 生かされていく』(致知出版)、『満月の夜、母を施設に置いて』(中央法規出版)、絵本こどもにつたえる認知症シリーズ全5巻(クリエイツかもがわ)、『徘徊と笑うなかれ』(中央法規出版)、『マザー』(ポプラ社)等多数。

申込方法：QRコードを読み取り申込フォームにて1月31日(月)までにお申込み下さい。

後日、返信メールにて参加用ID・パスワード等をお知らせします。

・視聴者の録音録画はご遠慮下さい。

★主任介護支援専門員更新研修受講対象研修

主 催：平戸市介護支援専門員連絡協議会

共 催：平戸市



<お問い合わせ> 平戸市地域包括支援センター TEL:0950-22-9132

扉

藤川幸之助

認知症の母を

老人ホームに入れた。

認知症の老人の中で

静かに座って私を見つめる母が

涙の向こう側にぼんやり見えた。

私が帰ろうとすると

何もわかるはずもない母が

私の手をぎゅっとなつかんだ。

そしてどこまでもどこまでも

私の後をついてきた。

私がホームから帰ってしまうと

私が出ていった重い扉の前に

母はぴったりとくっついて

ずっとその扉を見つめているんだと聞いた。

それでも

母は老人ホームに入れたまま

私は帰る。

母にとっては重い重い扉を

私はひょいと開けて

また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』

中央法規